



今年も警戒が必要な インフルエンザ

すでに異例の流行となっている今年のインフルエンザの状況について、海外の先行事例などを基にまとめました。

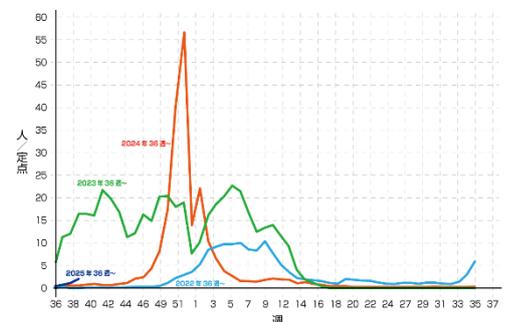
©Medical Trust All Rights Reserved.

今年も異例の早期流行

今年もインフルエンザが心配な季節になりました。ただ例年と大きく違うポイントがあります。それは厚生労働省が全国的な流行突入を、10月初旬に発表したことです。年間を通してインフルエンザが流行った一昨年を除けば、過去20年で2番目に早い開始となりました。実際、残暑が厳しい9月中に、インフルエンザによる休校や学級閉鎖も報道されていました。早期流行の原因についてははっきりしたことはわかっていません。しかしエアコンやインバウンドなどが原因と報道されています。いずれにしても、すでにインフルエンザが流行っている状態ですので、ワクチン接種などはなるべく早く済ませておいた方が賢明でしょう。じつはインフルエンザワクチンの免疫獲得には、通常、接種してから約2週間かかります。流行のピークを迎える前に免疫を獲得しておきたいものです。

右のグラフは、2022-2023年シーズン以降の東京都の定点医療機関当たりの患者報告数を示したものです。年ごとにかなり波形が異なっているのがわかるでしょう。2023-2024年は長期化が特徴で、2024-2025年は12月の爆発的な流行が話題となりました。今年どのような流行になるかはわかりませんが、警戒を怠らないことが大切でしょう。

定点医療機関当たり患者報告数



海外の状況は？

日本のインフルエンザ流行の先行指標となるオーストラリアで、今年、大きな懸念となっているのが「トリプルデミック」でした。これは3つのパンデミックが同時に起こることを指します。トリプルデミックは医療体制に負荷がかかり危険です。じつは昨年末、日本でもインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症・マイコプラズマ肺炎によるトリプルデミックへの警戒がメディアで取り沙汰されていました。これはマイコプラズマ肺炎が、1999年の調査開始以降の大流行となったためです。まだ2025-2026年シーズンは、トリプルデミックの危険性が声高に叫ばれる状況にはないようです。しかし警戒は怠らない方がいいでしょう。今後インフルエンザ感染は拡大していき、予防が重要度を増していきます。「手の消毒」「ワクチン接種」「十分な休養とバランスのとれた栄養摂取」「適度な湿度の維持」「繁華街など人混みへの警戒」「こまめな換気」などに気を配るようにしましょう。

今月はインフルエンザについてまとめました。